

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500597		
法人名	株式会社グランツ		
事業所名	グループホームぽっかぽか		
所在地	岩手県花巻市四日町二丁目1番1号		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0370500597-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念とする「ご利用者様、ご家族様の願いを叶える」「スタッフ自身も願いを叶える」「心も身体もぽっかぽかとなるような支援」を基本とし取り組んでいる他、今年度のテーマを「四季を感じる事の出来る生活」「毎日全利用者様と会話をもつ」と掲げ、四季を感じていただけるような創作活動や外出、レクリエーション活動を行っている。また、毎日全利用者様との会話をもつというテーマを掲げることで、自室にこもりがちでコミュニケーションが不足しがちな方へのアプローチの場を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の株式会社グランツの名称は、英語のgrant(叶える、認める等の意)からとられており、そのような会社の設立時の願いから事業所の運営理念が定められた。その他に、当事業所では、毎年のテーマを定めている。これは職員全員のアンケートから、月例ミーティングで議論しながら定めているものである。今年の目標は、「①四季を感じることで出来る生活」、「②毎日、全利用者様と会話を持つ」である。前者については、創作活動のテーマも季節感に配慮し、居間の装飾に季節感を反映するほか、レク、外出なども四季の移ろいを感じられるように配慮している。後者については、職員一人ひとりが、毎日2回ずつは利用者に声をかけるということを励行している。特に、会話が少ない人には、意識的に働きかけている。これらのテーマの実践については、月例ミーティングごとに振り返りを行い、実施状況や効果を確認している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度のテーマを「四季を感じる事の出来る生活」「毎日全利用者様と会話をもつ」と掲げ、月例ミーティングにて取り組み結果を振り返ることで目標に向かっての共有を図っている。	法人の理念のほかに、2、3年前から、任意にその年のテーマを作って実践している。テーマは各自から案を出してもらい、全員で議論して決めている。今年のテーマは、①四季を感じることのできる生活、②毎日全利用者様と会話を持つ、である。テーマの実践により、利用者の反応に手ごたえを感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃は、散歩や買い物などの際に地域の方々や挨拶を交わしている。また、一斉清掃や資源回収、地域の総会、地域のイベントに参加し交流を図っている。	自治会に加入し、一斉清掃、地区文化祭、新年会、ソフトボール大会などの行事に参加している。また、24時間テレビチャリティ募金活動にも参加した。お祭りのときには、地区の子供みこしが休憩所として敷地の一部を利用するなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や運営推進会議の際に内部でのサービスの特徴、認知症の基本的知識やケアについてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接の認知症対応型通所介護事業所と合同で二ヶ月毎に開催しており、活動報告や実績報告、事故報告等を行い地域の代表からはそれに関しての意見や地域の行事等の情報を得ている。	隣接する同一法人の施設「デイサービスぽっかぽっか」と合同で開催している。地域からは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席、その他に家族代表が加わっている。事故報告のほか、活動実績や予定などの報告、質疑などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のご案内をして参加をいただいている意見交換をしている。運営上の疑問点はその都度ご担当者に確認させていただいている。	運営推進会議に地域包括支援センターから参加するほか、日常的には、業務関連の諸連絡、照会等で連絡を取り合っている。行事関連での出席などの付き合いは少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	就労時、身体拘束禁止に関する具体的な行為を説明したり、月例ミーティングにて勉強会を行う等で身体拘束への理解を深めている。また、「身体拘束禁止方針」を掲示している。日中は施錠せず職員同士連携を図り、声掛けや見守りによる行動を抑制することのないようケアに取り組んでいる。	外部研修への参加は少ないが、所内では9月の月例ミーティングでほぼ全員が参加して、身体拘束に関する勉強会を行った。また、ポスターなども掲示し、職員の注意を喚起している。帰宅願望のある方には、声をかけ、気分転換を図り、気持ちが落ち着くまではついて行く等対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	就労時、虐待防止に関して学ぶ機会を持ち、定期的に職員に聞き取りを行い、見過ごされることがないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに該当となる方がいないこともあり、学ぶ機会を設けていない。必要時には事前にミーティングにて学ぶ機会を設け活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にサービス内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会にご家族様を案内し参加を促している。ご都合が合えばお越しいただき、意見や要望をお話しいただき、それらを運営に反映している他、事業所内に苦情相談窓口を設け、また外部の苦情相談窓口についてもホーム内に掲示している。	家族会は、家族の任意の集まりという形で開催している。3か月に一度程度、ボランティアの来所、食事会などのイベントがあるときに集まっている。参加者には、家族会資料を配布し、運営状況などを説明し、要望等についても聞いている。	広報誌の作成、配布がないので、家族会で配布される資料については、家族会の参加者のみではなく、欠席した家族にも行き渡るよう配慮されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングや日頃より職員から出た意見や提案を管理者で解決出来ることは早めに回答し、代表者でなければならぬ意見に関しては直ぐに代表者に伝え、対応をお願いしている。	月例ミーティングを月1回開催しているので、その場で出された意見は、管理者、代表者に伝えられている。その他、随時意見、提言は受け止められている。トイレの改修などは、長年の職員の要望を反映して実現したものである。自己評価については管理者が行い、職員は関与していない。	自己評価については、「自己評価のポイントが職員全員が実践状況を振り返ること」とされているので、自己評価への職員の関与について検討されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	悩みや意見、提案を聞き入れる場として個人面談を行っている。職能評価を実施し、個人評価・管理者評価・運営者評価を明らかにし、個々が次なる目標を設定できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就労時のオリエンテーション、毎月の内部研修(勉強会)を行い、全職員のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、勉強会等あればなるべく参加しその際に同業者との情報交換の場とさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの申し込みが主で、その際に本人の意向を伺うことは困難だが、自宅や入院先にアセスメントへ出向き、本人の不安や願い、心身の状態などを把握する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が相談に来た際、困っていることや不安なこと、求めていることなどをよく伺うよう努め、それに関してどのように支援出来るか等お話をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床により直ぐに入居出来ない場合にも、相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能または介護負担が軽減出来る問題であれば、当法人内のケアマネジャーにも同席や相談を求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事等ご利用者様と共に行っている。また、生活歴を生かした取り組みを行い、お互いに学んだり支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には普段の生活を詳しくお伝えしたり、家族会でご利用者様とご家族様が交流出来る場を設けたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの面会、電話等を受け入れている。また、馴染みの場所や思い出のある場所へお連れすることもある。	多い人では、週に3人くらいの友人、知人が訪れる人もいる。関係性の継続支援のために、年賀状送付を手伝っている。懐かしい場所としては、実家や墓参のほか、かつて買い物に訪れたマルカンデパートなどへも行く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや外出によりご利用者様同士が交流できる機会を設けている他、普段も職員が間に入り、会話等出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居する時は入院や死去が主で相談や支援をしていることは今まではあまり多くはないが、必要時には相談や支援を出来るよう退居時に声をお掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から想像したり、ご利用者様、ご家族様とお話し希望等把握するよう努めている。また月例ミーティングでそれらを踏まえた介護方針の検討をしている。	利用者本人の思いは、日常の会話の流れの中で、ふと漏らした言葉などに生活歴も加味しながら汲み取るようにしている。その思いを、ミーティングなどで検討しながら介護に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで生活歴やサービス利用の経過等をご家族様、ご利用者様から伺っている。家族の了承を得て、他事業所からもサービス利用時の状況を聞き、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カーディックス記録用紙に一日の様子を記入し、一週間ごとにみることが出来、連絡ノートに通院結果や身体の変化等記入し、勤務に入る前は必ず目を通すようにしている。また、月例ミーティングにて一ヶ月の様子を振り返ることで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上でサービス計画書を作成している。それを毎月家族へ送付し意見を伺っている。	月例ミーティングで毎月、担当者会議を行い、家族の意見や職員の意見も反映させたサービス計画書を作り、それを毎月家族に送付している。3か月に一度は見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子の記録の他、連絡ノートや通院記録ノートを活用し、職員は勤務に入る前に必ず目を通し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	彼岸やお盆、外食等家族で外出できるよう支援している。希望があればご家族様がホームに宿泊することも出来る。また、ご家族様の負担軽減のため、通院は原則事業所対応としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には区長・自治会長・民生委員にご案内状を出し、地域資源についての情報を頂いている。また、地域で行われる行事等にも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、入居前からのかかりつけの病院を継続する。また、必要に応じて協力病院等に変更する場合、ご利用者様やご家族様に理由等を十分に説明し了承を得た上で変更している。	従来からのかかりつけ医を継続しているのは現在の利用者7人中5人である。通院の介助は職員が行い、その結果については直ちに家族に報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員が日常的に健康管理に努めている他、適宜かかりつけの病院の医師・看護師に相談し、適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院先へ見舞ったり電話連絡にて、経過の把握を行っている。その都度担当医、看護師と情報交換している。また、退院許可のあった際にはご利用者様、ご家族様の意向も踏まえつつ極力早く退院出来るよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の処置やケアの意向をご利用者様・ご家族様に伺いその意向を主治医にも伝え協力をお願いしている。日常的に医療行為が必要になった場合には治療に適した病院への入院、介護老人保健施設への入所、有料老人ホーム等での訪問看護サービスなど受けることを勧めている	終末期の対応については、指針があり、看取りの実績もある。しかし、当事業所の基本的な対応としては、看取りはしないこととして、利用者の入居時に説明をしている。終末期の対応については、家族の意向を確認し、協力できることについては伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め、緊急時に備えている他、定期的に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、災害時に対応出来るよう努めている。また、火災や地震時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め災害時に備えている。地域との協力体制を築くことが今後の課題である。	6、10月の2回実施したうち、1回は消防署立会の下に避難訓練を行った。夜間想定のもとに通報、救助、支援要請など一連の流れを確認している。2階居室の利用者の避難は、1対2での避難、背負っての避難などについて訓練をしている。なお、訓練は隣接する同一法人のデイサービスと連携して行っている。	災害対応は、地域内で相互に支援、協力の対応が求められることが多い。既に地域防災組織に加入済みであるが、訓練の時点から、地域の協力体制を築いていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際、トイレやお風呂を利用する際等、日常定期的なケアにはご利用者様のプライバシーに配慮している。個人情報の使用の際にはご利用者様やご家族様の同意を得ており、使用時は最新の注意を払っている。	プライバシーの確保に関し、日常業務の中で、職員の言動に気になることがあれば、注意するようにしている。プライバシーの確保等に関しては、課題項目の一つと認識しているので、体系的な研修を実施したいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様から困っていることや不安なこと、求めていることなどを聞き取れるよう個人に合わせゆっくり会話が出来る時間を設け、また、押し付けにならずご利用者が選択できるような問いかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外出の希望があればなるべく当日、もしくは近日常にお連れするよう心掛けている。レクや外出には無理強いないようお誘いしている。健康状態を維持するために規則正しい生活を基本とはしているが、夜更かしや寝坊にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時にはご自宅に衣類がないかを確認し、新しい衣類を購入して良いとの時には一緒に買い物出来る機会を設けている。またご希望があれば入居前からの行きつけの理、美容院へもお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設駐車場内にある畑で野菜栽培、収穫したり、皮むき等一緒に行い食事した時の楽しみに繋げている。正月にはおせち、クリスマスにはケーキ等季節の食事を楽しんでいただいている。ご要望のある方には通院後に外食したり、おやつを食べに出掛けている。	献立、調理は、隣接している同一法人経営のデイサービス、老人ホームの各事業所と分担して行っている。毎月、本社全体で給食委員会を開催して、食事内容についての改善を図っている。調理、食器洗いなどのうち、軽易な作業には利用者も参加している。菜園での野菜の収穫、調理も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や栄養摂取量に配慮が必要なご利用者様については、食事やおやつ時適量を摂取して頂けるよう声掛けや見守り・介助をしている。また、各ご利用者様の状況に応じ硬さや大きさ等に配慮し食事は必要時記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、もしくは就寝前に、一人一人の状況に応じ口腔ケアを行っている。必要に応じ適宜歯科受診をし、義歯や口腔内衛生など口腔の状態を良好に保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の声掛けにてトイレ誘導したり、ご利用者様の力を活用して排泄できるよう手順の声掛けをし、出来る限りおむつへの移行のないよう支援している。	利用者のうち、3人は自立している。水分の補給量、朝夕の時間帯、季節などを考慮しながら、トイレへの誘導の時間をはかり、声掛けをしている。また、トイレでの排泄の手順を声を出して確認するなど、できるだけ自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料やヨーグルト、食物繊維の多い食品等を積極的に献立に取り入れるよう努めている。必要に応じ水分摂取量、排便の有無などをチェックし記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めながらもお断りされる方、時間帯の希望のある方にはそれに添う形の支援となるようお応えしている。	原則的には、3日に一度の割合(週に2~3回)で入浴しているが、希望があればその都度応じている。入浴時間は午前から夕方まで。入浴中は、ゆったりと会話を楽しむことを大切にしている。ゆず湯など昔ながらの季節感にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れないご利用者様には、日中活動的に過ごしていただけるよう促している。昼寝を希望される方には居室にてゆっくりと休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の一覧表をファイルし設置している。服薬の確認、介助したスタッフはカーデックスにサインを記入している。また、誤薬等ないようにミーティング等で定期的に注意を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事や畑仕事等一緒に行い、運動がお好きなご利用者様には運動系レク等行い、楽しみや気分転換に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常にイベントの情報収集に努め、可能な限りお誘いし外出している。また、ご要望がある場合には日時等調整しなるべく外出出来るよう支援している。	好天の時には、近くの公園、お寺に散歩に出かけたり、敷地内の菜園で畑仕事を楽しんだりしている。2階には6人居住しているが、そのうち5人は、起床後、就寝までは1階の居間兼食堂で過ごすことが多いので、外出には支障はない。季節により、豊沢ダム、展勝地、大堤などへ遠出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理しているが、ご利用者様やご家族様のご希望があれば所持し、買い物時に使うことも可能である。認知症のため紛失の恐れもあるため多額は所持しないようにお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。また、手紙の返事や年賀状を書いたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は台所と接し、調理する音やご飯の炊ける匂いが生活感として、リビングにはクリスマスツリー、水木団子、七夕飾り等を飾り季節感を取り入れている。不快な音もなくゆったりと過ごせるよう工夫をしている。	居間兼食堂には、ダイニングテーブルと椅子、ソファを配置している。利用者は、それぞれお気に入りの場所に座り、職員と話したり、テレビを観たりできるくつろげる空間となっている。季節がら、クリスマスツリーが置かれ、壁面には書道などの作品や特色のあるカレンダー、ポスターが飾られ、季節感、生活感が感じられる落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にもソファを設置し、ご希望により独りで過ごしたり、仲の良いご利用者様同士で過ごせるような場所は確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には、ご家族様に使い慣れた馴染みの調度品を持参してもらうように話している。居心地良く過ごして欲しいとの願いから沢山持参して下さる方もいれば、居室にこもることなくみんなが過ごしている場所で過ごして欲しいという願いから極力荷物は少なくされるかたもある。	事業所側で備え付けの備品は、エアコン、ストーブ、収納棚等であり、ベッドは持ち込みも可能だが、全員貸与品の電動ベッドを使用している。テレビや衣装ケース、化粧品、小テーブル、写真等利用者の馴染みの日用品や思い思いの品が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関、階段にはスロープや手すりを設置し、ベッドには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。		